

計 画 期 間

令和3年度～令和12年度

大衡村肉用牛生産近代化計画書

令和4年3月

大衡村

目 次

- I 肉用牛生産の近代化に関する方針
- II 肉用牛の飼養頭数の目標
- III 近代化な肉用牛経営方式の指標
- IV 肉用牛の飼養規模の拡大に関する事項
- V 国産飼料基盤の強化に関する事項
- VI 肉用牛の共同出荷その他肉用牛の流通の合理化のための措置
- VII その他肉用牛生産の近代化を図るために必要な事項

I 肉用牛生産の近代化に関する方針

大衡村は宮城県のほぼ中央に位置しており、耕地面積1,634ha、うち水田面積1,084haで良質米ひとめぼれ、ササニシキの産地としての水稻が基幹品目になっており、畜産（乳牛、繁殖牛）、花き、椎茸、野菜等との複合経営が行われている。本村の畜産業は、繁殖牛農家32戸、肥育牛農家2戸、乳用牛農家4戸で構成され、近年は肥育から繁殖へシフトしている。しかし飼養者の高齢化が進んでおり、持続的且つ発展的な繁殖・肥育基盤を維持していくことが大きな課題である。また、近年の豪雨や大雪、地震等の自然災害による被害の拡大、さらには新型コロナウイルス感染症の拡大が畜産物の消費減退を招き、畜産農家に大きな影響を及ぼしている。そのような状況において、安定した繁殖・肥育基盤の強化及び労働時間・生産コストの低減化を進め、関係者との連携・協力を図る。

① 肉用牛経営の増頭・増産

村内は中小規模の家族経営が主であるため、村内全体での連携強化を図り、増頭・増産を推進する。

② 中小規模の家族経営を営む収益性の高い経営の育成・経営資源の継承

牛舎内の飼育環境の改善や事故率の低減、供用機間の延長等の飼養管理技術の向上と合わせて、ロボット、ICT、IoT、AIなどの新技術の活用を推進する。また、後継者不在の農場の経営資源を活用するため、必要な畜舎等の整備を行えるよう支援するとともに、意欲ある担い手へ継承し活用する取組を推進する。

③ 家畜排せつ物の適正管理と利用の推進

環境関連の規制基準等に対応するため、家畜排せつ物処理施設の整備や長寿命化を進めるとともに、堆肥等の利用を推進する。また、臭気や排水に係る環境規制へ適切に対応するため、悪臭防止や堆肥化等に必要な施設・機械の整備を推進する。

④ 国産飼料基盤の強化

大型機械による飼料生産を可能とする草地整備等を進めるとともに、収穫適期が異なる複数の草種の導入等により、近年の気象変動に対応した飼料生産を推進する。

II 肉用牛の飼養頭数の目標

区域名	区域の 範囲	現在(平成30年度)								目標(令和12年度)							
		肉用牛 総頭数	肉専用種				乳用種			肉用牛 総頭数	肉専用種				乳用種等		
			繁殖雌牛	肥育牛	その他	計	乳用種	交雑種	計		繁殖雌牛	肥育牛	その他	計	乳用種	交雑種	計
大 衡 村	全 域	238	220	18	0	238	0	0	0	288	288	0	0	0	0	0	0
合 計	全 域	238	220	18	0	238	0	0	0	288	288	0	0	0	0	0	0

- (注) 1. 繁殖雌牛とは、繁殖の用に供する全ての雌牛であり、子牛、育成牛を含む。
 2. 肉専用種のその他は、肉専用種総頭数から繁殖雌牛及び肥育牛頭数を減じた頭数で子牛を含む。以下、諸表において同じ。
 3. 乳用種等とは、乳用種及び交雑種で、子牛、育成牛を含む。以下、諸表において同じ。

III 近代的な肉用牛経営方式の指標

(1) 肉専用種繁殖経営

目指す経営の姿	経営概要			
	経営形態	飼養方式	外部化	給与方式
黒毛和種 経営	家族 (1戸1法人畜)	群飼 スタン	肉用牛への ケトル・ケトル・ ケトル・ケトル・ ケトル・ケトル・ ケトル・ケトル	分譲 給与
黒毛和種 単一経営	家族 (1戸1法人畜)	群飼 スタン	肉用牛への ケトル・ケトル・ ケトル・ケトル・ ケトル・ケトル	分譲 給与

生産性指標

分娩 間隔	牛										人				備考		
	初産 月齢	出産 月齢	出産時 体重	作付体積 及び草取	作付 延べ 面積 ※草利用率 を含む	外郭化 (種類)	購入調製 飼料 (種類)	飼料自給率 (調製飼料)	粗飼料 給与率	経営内 堆肥 利用率	生産コスト 子牛1頭当たり 費用合計 (現状との比較)	子牛1頭 当たり 飼養労働 時間	総労働時間 (主たる従 事者)	組収入		経営費	農業所得
ヶ月	ヶ月	ヶ月	kg	ha	ha	%	%	%	割	円(%)	hr	hr	万円	万円	万円	万円	万円
12.0	22.9	3.0	310	2.100 或糞草	3.0	飼別 完結	補NCS 飼料用米	82.2%	経営内 10.0 経営外 0.0	518,000 (90)	95.4	2,280	1,784	744	1,051	556	
12.0	22.9	3.0	310	2.100 或糞草	20.0	生産結束 コンタクト	補NCS 飼料用米	82.4%	経営内 10.0 経営外 0.0	452,400 (90)	74.0	4,752	4,688	1,608	2,884	842	

- (注) 1. 「方法」欄には、経営類型の特徴を、「備考」欄には「方式」の欄に掲げる方式を適用すべき区域等を記入すること。
 2. 6次産業化の取組を織り込む場合には、基本方針の第3の票のように、6次産業化計画に係る指標を分け記入すること。
 3. (注) 1, 2については、「肉専用経営方式」についても同様とする。

IV 肉用牛の飼養規模の拡大に関する事項

(1) 地域別肉用牛飼養構造

	区域名		① 総農家数	② 飼養農家 戸数	②/①	肉用牛飼養頭数							
						総数	肉専用種				乳用種等		
							計	繁殖雌牛	肥育牛	その他	計	乳用種	交雑種
肉専用種 繁殖経営	大衡村	現在	戸	戸	%	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭
	全域	目標	375	32	8.0	220	220	220					
				26		288	288	288					
肉専用種 肥育経営	大衡班	現在	375	2	0.5	18	18	0	18	0			
	全域	目標		0	0	0	0	0	0	0			
乳用種・交雑 種肥育経営		現在											
		目標											

(2) 肉用牛の飼養規模の拡大のための措置

- ① 規模拡大のための取組
- ② 規模拡大は困難だが経営規模を維持するための取組
- ③ ①・②を実現するための地域連携の取組

村内経営体のほとんどが小規模な繁殖経営であり高齢化や後継者不足により離農が続いている。このような状況の中、肉用牛飼養頭数を確保するため、村単独補助事業やその他各補助事業等を活用しながら、牛舎の新築や増改築、簡易牛舎の新設等によりここへの経営体における規模拡大や現状維持を推進する。

V 国産飼料基盤の強化に関する事項

1 飼料の自給率の向上

		現在	目標（令和12年度）
飼料自給率	乳用牛		
	肉用牛	67.7%	81.1%
飼料作物の作付延べ面積		70.8ha	110.5ha

2 具体的措置

① 粗飼料基盤強化のための取組

村内では主食用米の需要減少に伴い、転作作物として飼料用米や稲発酵粗飼料の作付けが拡大している。そのため、今後も村水田協や県・農協等の関係団体と連携し、耕畜連携による更なる作付面積増加を推進し、飼料用米の作付面積は120.0ha、稲発酵粗飼料の作付面積は45.0haを目標とする。

② 輸入とうもろこしの代替となる飼料生産の取組

村内では子実用とうもろこしの栽培は行われていない。そのため、県と連携し情報を共有したい。

VI 肉用牛の共同出荷その他の肉用牛の流通の合理化のための措置

(1) 肉用牛（肥育牛）の出荷先

	現在（平成30年度）				目標（令和12年度）			
	出荷頭数 ①	出荷先		②/①	出荷頭数 ①	出荷先		②/①
		県内 ②	県外			県内 ②	県外	
	頭	頭	頭	%	頭	頭	頭	%
肉専用種	10	8	2	80	0	0	0	0
乳用種	0	0	0	0	0	0	0	0
交雑種	0	0	0	0	0	0	0	0

(2) 肉用牛の流通の合理化

具体的取組

本村は、肥育経営から繁殖経営へシフトしており、仙台牛の素牛生産として流通体制の強化を図る。

VII その他肉用牛生産の近代化を図るために必要な事項

計画期間内に重点的に取り組む事項

【事項番号② 中小規模の家畜経営を営む収益性の高い経営の育成，経営資源の継承（対象地域：村内全域）】

持続性の高い畜産経営を確立するため，中小規模経営体の担い手を確保するとともに生産力の向上を図る。また，家畜の遺伝子評価やICTを活用したアグリテックの導入による効果的な畜産経営を推進する。

【事項番号④ 国産資料基盤の強化（対象地域：村内全域）】

自給飼料生産基盤の固有活用を図るため，多収性が見込める県推奨品種を推進する。また，自給飼料の生産コストを低減するため，飼料用米の生産と拡大を図る

大衡村肉用牛生産近代化計画協議説明書

1 農業の概況

大衡村は農家戸数375戸のうち兼業農家が75%以上を占めており専業農家は15%未満となっている。村内の農業生産状況はほとんどが主食用米で総生産額の約65%である。畜産農家については、乳用牛農家と肥育農家が徐々に減っており、繁殖牛農家へと置き換わっている（平成27年から平成31年において、乳用牛頭数は42.2%減、繁殖雌牛頭数は38.7%増）。

(1) 農家戸数及び畜産農家戸数

区分	専業別農家戸数				畜種別農家戸数					飼養密度		
	専業	兼業		計①	乳牛②	肉用牛			計③	②+③/①	②/①	③/①
		I兼	II兼			繁殖雌牛	その他	乳用種等				
戸数	55	58	262	375	4	32	2	0	34	0.101	0.011	0.091
頭数	/				139	220 (197)	18	0	377	/		

- (注) 1. 肉用牛の繁殖雌牛とは、繁殖の用に供している全ての雌牛をいう。なお、()内に24ヶ月齢以上の頭数を記入すること。
2. 乳用種等とは、乳用種及び交雑種で、子牛、育成牛を含む。

(2) 農業生産状況

区分	耕種											養蚕	畜産					
	米	麦類	雑穀豆類	いも類	野菜	果実	工芸農産物	飼料作物	飼料用米	その他	計		乳用牛	肉用牛	豚	鶏	その他	計
作付面積(ha)	707	0	108	1	16	0	0	55	77	58	887	0	/	/	/	/	/	/
生産額(千円)	1,320,000	0	20,000	0	450,000	10,000	0	/	/	10,000	1,800,000	0	110,000	130,000	0	0	0	240,000

- (注) 1. 鶏は鶏卵と肉鶏（産鶏を含む）との合計とする。
2. 養蚕の作付面積欄には桑の作物面積を記入すること。

2 乳牛及び肉用牛の飼養の状況、生乳及び肉用牛の生産及び流通の状況並びに飼料の生産の状況

大衡村は農家戸数375戸のうち肉用牛農家及び乳用牛農家が約10%ほどを占めており、肉用牛が約130,000千円、乳用牛が約110,000千円を生産状況になっており、村内農業生産量の13%以上を占めている。また、転作作物作付けが増えており飼料用米や飼料作物の生産量が年々増加している。

3 その他参考となる事項

農業生産状況については水田協データより引用